

第2章

計画の基本的な考え方



市内各行政区や小中学校、幼稚園・保育園を回って直接ヒアリングを行ったり、市民アンケートを実施したりして、市民の教育に対する願いを集め、基本理念や目指す人間像を設定しました。

1 本市の現状

■ 地理的環境

本市は愛知県のほぼ中央部に位置し、東に豊田市、西に名古屋市があり、南北に長い形をしています。地形は、起伏の多い丘陵地と、境川、逢妻女川流域の平坦地からなっており、自然災害等も比較的少ない、温暖なまちです。気候にも恵まれているため、米・野菜・果樹などの栽培に適しています。

市の中央には、春には桜の名所として、夏には三好池まつりの会場として市民に広く親しまれる三好池があります。三好池は、マラソン大会の会場になったり、カヌー競技が開催されたりもしています。

32.19km²という地理的なコンパクトさは、市民が一つになることを可能とする大きな強みです。



■ 歴史・沿革

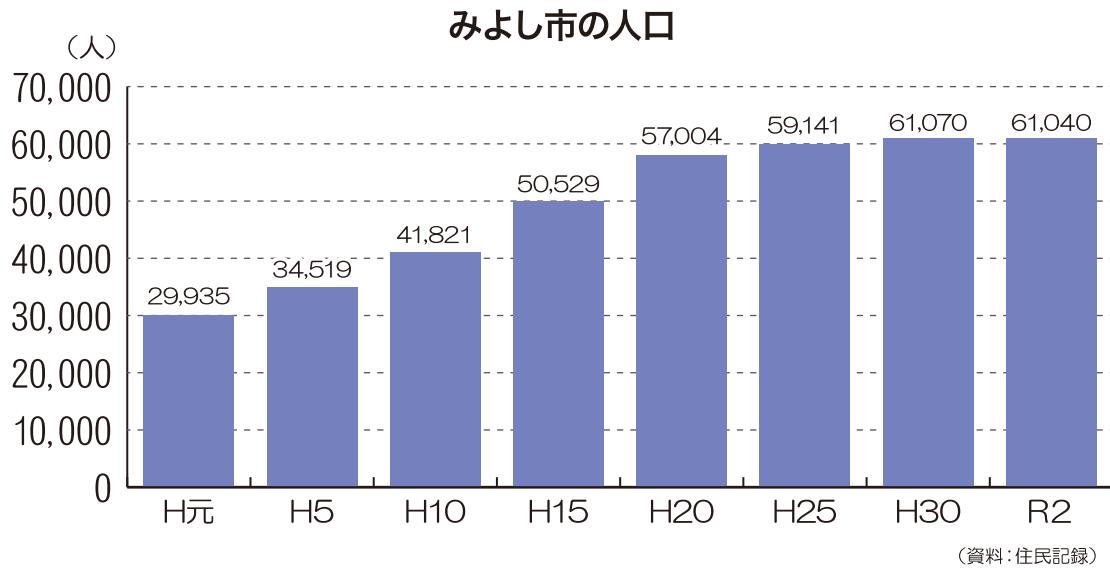
本市には窯の名称を持つ地名が多く、古窯も多数発見されています。これらは須恵器などの窯跡であることから、本市には1000年以上も前から人が住み、窯業地帯として産業が発達していたと考えられています。

昭和33年に町制を施行した頃は農業を主とするまちでしたが、愛知用水通水後、積極的な企業誘致を推進したことから、工業が急速に伸びました。平成に入る頃には北部地域で大規模な住宅整備が始まり、人口が大きく伸びました。

市となった現在は、昔からのみよしの良さを継承し、みんなの中に「ふるさとみよし」を愛する心を育てることが必要とされています。

平安時代 (約1200年前)	陶器が盛んに作られる
戦国時代 (約500年前)	福谷城・三吉城・明知城がつくられる
1906(明治39)	三つの村が合併し三好村となる
1912(明治45)	三好村の人口6,175人
1958(昭和33)	三好村から三好町になる
1963(昭和38)	愛知用水ができあがる
1966(昭和41)	三好町に初めて自動車工場ができる
1979(昭和54)	名鉄豊田線が開通する
1988(昭和63)	三好ヶ丘ニュータウンのまちびらき
2010(平成22)	三好町からみよし市になる
2020(令和2)	市制施行10周年

■人口の推移



本市の人口は、平成元年からの30年間で約2倍となりました。上のグラフでも明らかのように、平成20年以降も緩やかに増加を続けています。日本の総人口が減少し、急速に少子高齢化が進む中、人口増となる数少ない自治体です。

昔からの住民と新しい住民が交じり合い、共に成長していくためには、スポーツや文化活動など、あらゆる機会を捉えて、みんなで一体感を感じることで「人と人とのつながり」を生み出す必要があります。

また、人口の増加に呼応して、海外からの移住者も増えました。平成20年の1,994人を第1のピークとして、その後は1,500人程度で推移してきました。特に、平成28年からは年々増加を続け、令和2年は2,221人の外国人が市内で生活しています。言葉の問題や文化の違いから日常生活や学校生活に苦労している方もいるため、個別に支援をしていく必要があります。

また、高齢化について、令和2年度の65歳以上人口は22.0%であり、愛知県内では最も高齢化率の低い市町村の一つです。しかし、高齢化率が50%を超える行政区が4地区あるなど、世代構成の偏りから、急激な高齢化が心配されます。

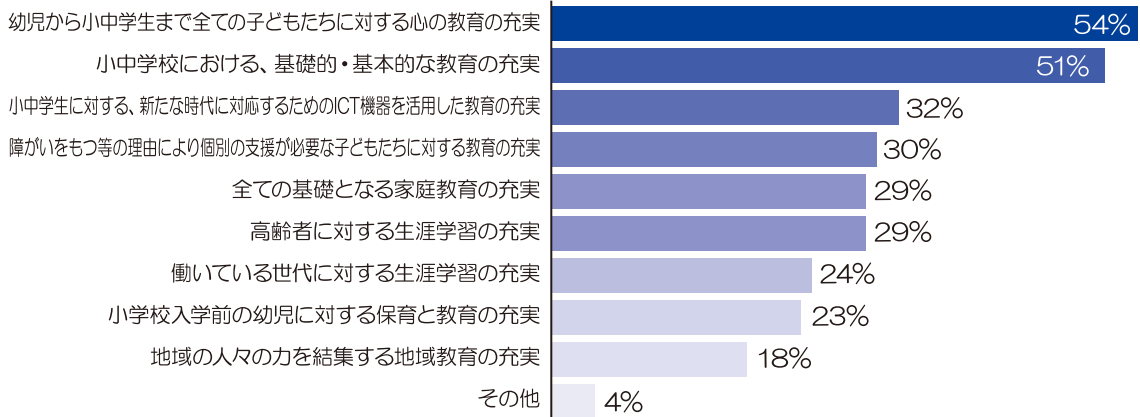


(R1親子三世代交流の様子【南部小】)

昔からの住民、新しい住民、外国人、若者、お年寄り、そして障がいのある方など、全ての人がつながり合い、「みんなで築くささえあいと活力の都市」を目指していく必要があります。

■子どもの教育

今後、みよし市はどのような教育に力を入れるべきか（複数回答）



（R1みよしの教育に関するアンケート【市民】）

今後の本市は、どのような教育に力を入れるべきかを市民に尋ねたところ、「子どもたちに対する心の教育」「小中学校における教育」「新たな時代に対応するICT教育」など、**次代を担う子どもの教育に特に力を入れてほしいという声が多く寄せられました。**

行政区でのヒアリングでも、「子どもが核になって人が集う」という声がたくさん聞かれました。

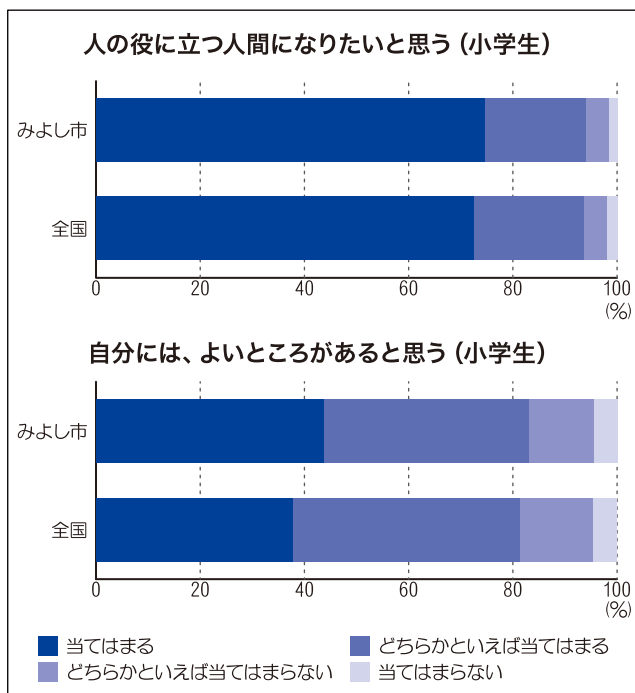
私たちの行政区には、引っ越してきた人たちがたくさんいますが、子どもが同級生ということで、親同士も仲良くなりました。子どもが核になって大人同士のつながりが生まれています。（行政区ヒアリングより）



子どもの教育においては、不易である「知・徳・体」のバランスのとれた人づくりを進めていく必要があります。

「知」の分野に関しては、毎年行われる全国学力・学習状況調査の結果を見ると、市内の小中学生は、「全体的におおむねできている」もしくは、「よくできている」状況にあり、知識・活用の両面において適切な力がついているといえます。今後は、「主体的・対話的で深い学び」の実現により、新しい時代に必要となる資質・能力を着実に身に付けていく必要があります。

さらに、超スマート社会（Society 5.0）の到来が予想されるなか、子どもたちが発達段階に応じたICT活用スキルを身に付け、仲間と協力したり、自ら主体的に調べて問題を解決したりする学習に取り組めるよう、ソフト・ハードの両面からしっかりと準備を進めていくことが急務となっています。



(R1全国学力・学習状況調査)



スマートフォンでのやりとりをきっかけに起きるいじめなども心配ですが、長時間利用による健康被害も心配です。夜遅くまでスマートフォンを触っていたために保健室にやってくる子もいます。
(学校ヒアリングより)

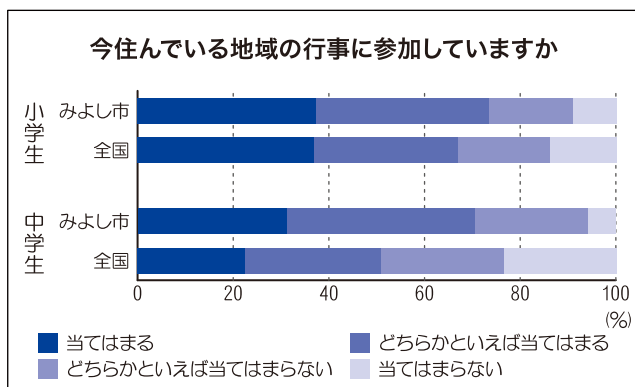
「徳」の分野に関しては、各校で道徳の研究が盛んに行われるなど、本市では以前より心の教育に力を入れてきました。

左のアンケート結果からは、実践の成果はある程度見られるものの、子どもの中に自己肯定感や他者を思いやる心が十分育っているとはいえません。引き続き、家庭・地域・学校が一丸となって心の教育を推進していく必要があります。

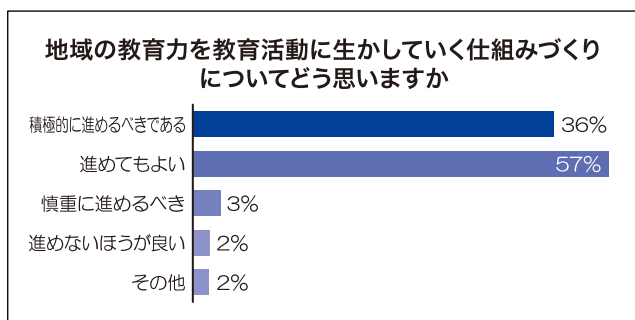
「体」の分野に関しては、部活動や地域でのスポーツ活動に熱心に取り組んでいる子どもが多数いるものの、外遊びや身体を動かす機会の減少による体力低下は全国的な傾向であり、それは本市も例外ではありません。また、スマートフォンなどの長時間使用による健康被害なども新たな課題となっており、心身ともに健やかな子どもの育成は、教育の重要課題の一つです。

また、教育現場では、特別な配慮を要する子どもや、外国人の子どもに対するさらなる支援が求められています。いじめや不登校など生徒指導上の諸課題を含め、個に応じた教育に適切な対応のできる人材の確保や育成は大きな課題です。

子どもの教育を取り巻く状況は多様化・複雑化していますが、左のアンケート結果のように、本市の教育の強みは、地域とのつながりの強さです。今後は、地域の教育力を生かした「みよし市版コミュニティ・スクール」の設置や、地域と協働した活動の推進により、地域の中で知・徳・体のバランスのとれた子どもを育てていく仕組みづくりが必要です。



(R1全国学力・学習状況調査)



(R1みよしの教育に関するアンケート【市民】)

■生涯学習・生涯スポーツ

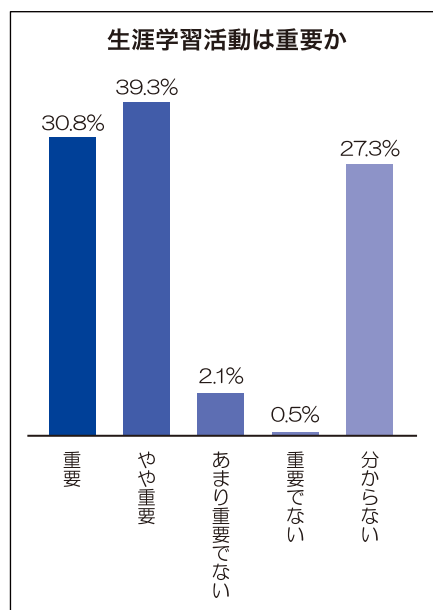
「生涯学習が今後の人生で重要だ」と答える市民が7割を占めるなど、多くの市民が生涯学習の必要性を感じています。特にスポーツ分野に対しては市民の関心も高く、今後ぜひ参加したいという声が数多く聞こえてきます。

本市では、スポーツ推進委員会が組織され、市の体育祭、マラソン駅伝大会などの運営を担っています。また、各行政区に地区スポーツ委員が配置され、スポーツイベントの運営を担うなど、地域のスポーツ活動を推進しています。なお、みよし市スポーツ協会などの各種スポーツ団体や、総合型地域スポーツクラブなどへの支援も行っています。

「行うスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」の三分野に対してさまざまな施策を行っていますが、成人の週1回以上のスポーツ実施率の向上などには依然として課題を残しています。

文化活動の分野では、「みよし悠学力レッジ講座」などでさまざまな生涯学習講座が開催されています。また、各行政区等でも、地域の交流と教養を高めるためにさまざまな活動を行っています。生涯学習に関する活動は、市内各所で行われており、全般的に利用者は増加傾向にあります。

これらの市民の生涯学習に対する関心・意欲の高まりに応えるため、平成28年に図書館機能・生涯学習機能・交流機能を併せ持つ、図書館学習交流プラザ(サンライブ)が開館しました。今までの4倍以上の蔵書収容能力を誇る図書館と、充実した生涯学習拠点を舞台に人々が交流することで、市民の中にますます生涯学習が広がるように、より魅力ある施設になるよう努めていきます。

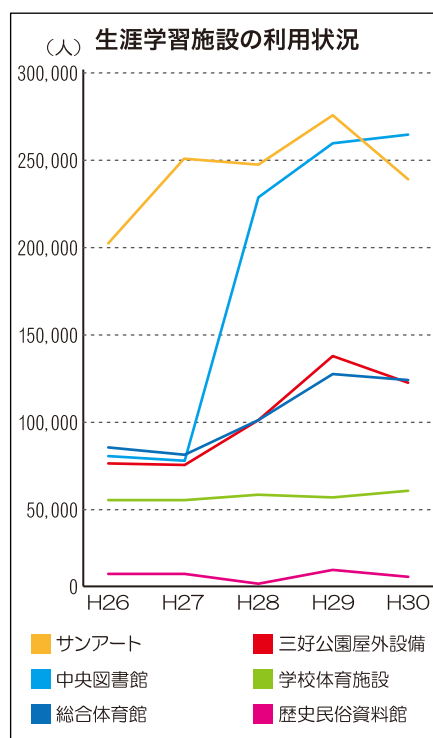


(H30行政評価アンケート)

成人の週1回以上のスポーツ実施率

	目標	実施率
みよし市	65%	45.8% (R2)
愛知県	65%	45.5% (H22)
国	65%	53.6% (R1)

(R2スポーツ活動に関するアンケート調査他)



(R1みよしものしり専科他)

2 国や県の動向

■ 国の動向

平成18年に改定された教育基本法の中で、政府が策定し、国会に報告することが定められた「教育振興基本計画」が、全ての教育施策の根幹となっています。第3期教育振興基本計画（平成30年度～令和4年度）では、第2期計画の「自立」「協働」「創造」の方向性を実現するための生涯学習社会の構築を目指すという理念を引き継ぎつつ、2030年以降の社会変化を見据えた教育政策の在り方を示しています。教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に捉えて、以下の5つの基本方針を掲げています。

1. 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する
2. 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する
3. 生涯学び、活躍できる環境を整える
4. 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する
5. 教育政策推進のための基盤を整備する

新学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むために、全ての教科において、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度の三要素に分類し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進と、「社会に開かれた教育課程」により、教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの確立が重視されています。

■ 県の動向

令和2年度に策定された第四次愛知県教育振興基本計画「あいちの教育ビジョン2025」（令和3年度～令和7年度）では、第三次計画「あいちの教育ビジョン2020」の基本理念を継承しつつ、新たな課題や今後育むことが求められる力の育成を図るため、次のように基本理念を設定しています。

■ 基本理念

「自らを高めること」と「社会の担い手となること」を基本とし、ふるさとあいちの文化・風土に誇りをもち、世界的視野で主体的に深く学び、かけがえのない生命や自分らしさ、多様な人々の存在を尊重する豊かな人間性と「知・徳・体」にわたる生きる力を育む、あいちの教育を進めます。

第四次計画では、家庭・地域・学校及び産・学・官のさらなる連携強化や、多様性理解の推進、ICTの活用推進、SDGsの考えに沿った取組、学校種を超えた学びの連続性が重視されています。自ら学びに向かう教育、人としての在り方・生き方を考える教育、健やかな体と心を育む教育を充実させ、豊かな人間性と「知・徳・体」の調和のとれた、未来のあいちを担う人材の育成が求められています。

3 みよしの教育の基本理念

今まで述べてきた、本市の現状（地理的環境、歴史・沿革、人口の推移、子どもの教育、生涯学習）と、国や県の動向から、これからのみよしの教育に最も必要とされているのは、**真の「学び」が持つ楽しさにより、人と人がつながっていくこと**であると考え、次のような理念を計画の中心に据えました。



基本理念

学ぶ楽しさで、 人と人をつなぐ



体験や経験を伴う真の「学び」は、知的好奇心の充足感や、自己実現の喜びだけでなく、仲間と協働してものごとを成し遂げる充実感や、新たな人・もの・こととの出会いを生み出します。これらの充実感や出会いは、生涯にわたって学び続ける原動力となり、さらには「学ぶ楽しさ」となって人と人をつないでいきます。昔からの住民と新しい住民が交じり合い、絶え間なく発展を続けている私たちのまちでは、人と人が固く結び付くことが必要とされています。

学ぶ楽しさを知った人は周りの人とつながり合い、生涯にわたり仲間と共に学び続ける人となります。

4 三本の柱と目指す人間像

本市では、基本理念に従い、次のような三本の柱を設定することで、目指す人間像に迫ります。一人一人の輝きが、みよしというまちの輝き、そして私たちの社会全体の輝きとなることを目指します。

I 次代を担う子どもをみんなで大切に育てる

「知・徳・体」のバランスのとれた子どもを、一人一人の個性を大切にしながら、家庭・地域・学校みんなで大切に育てます。また、子育て世帯もしっかりと応援していきます。

II 生涯にわたって学び続ける市民を応援する

義務教育を終えた後も、生涯にわたって学び続ける市民を応援します。スポーツから文化・芸術に関することまで、市民の生涯学習を幅広く支援し、人と人のつながりを生み出します。

III 「ふるさとみよし」を創る市民を育てる

みよしの良さを知り、未来のみよしを創る市民を育てるために、子どもの頃からみよしの良さを体験的に学べるようにしたり、学びを通じて人と人が出会うような場づくりをしたりします。

目指す人間像

生涯にわたって自らを磨き続け、
仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、
より良い次代を創り出す人

5 みよし教育プランの全体像

みよし教育プランの全体像を図式化すると、次のようになります。
0歳から100歳を超えるまで、全ての市民の学びを全力で応援していきます。

目指す人間像

生涯にわたって自らを磨き続け、
仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、
より良い次代を創り出す人

基本理念

学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ

I 次代を担う子どもを みんなで大切に育てる

- 子育て世帯を支援する
- 仲間と進んで学ぶ子どもを育てる
- 心豊かな子どもを育てる
- たくましい子どもを育てる
- 個に応じた教育を推進する
- 安心・安全・快適で信頼される学習環境をつくる

II 生涯にわたって 学び続ける市民を応援する

- 生涯学習環境を整える
- 生涯スポーツを推進する
- 文化活動を活性化する



III 「ふるさと みよし」を創る市民を育てる

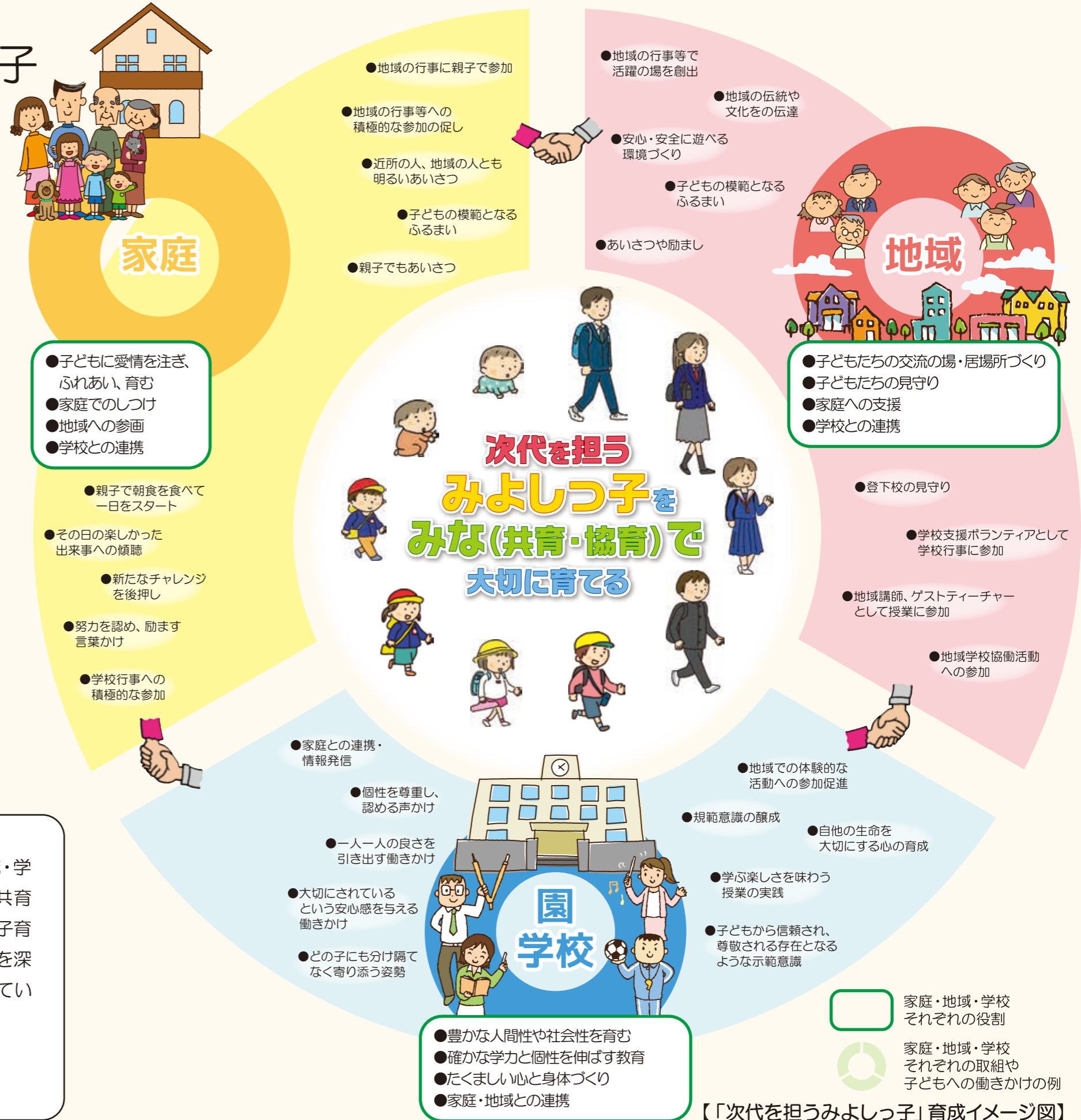
- ふるさと学習を推進する
- 人と人との出会いを生み出す

6 みんなで育てるみよしっ子 ～共育・協育を通して～

本計画の「目指す人間像」に迫るための手立てである「三本の柱」の一つに、「I 次代を担う子どもをみんなで大切に育てる」が掲げてあります（P21参照）。そこで、「次代を担う子どもをみんなで大切に育てる」ために、右のような「『次代を担うみよしっ子』育成イメージ図」を作成し、家庭・地域・学校それぞれの役割と、大人が子どもたちに対して「こんな働きかけができればいいな」という取組を例として示しました。

大人は誰もが、「心身ともに健やかな子どもに育ててほしい」という願いを持っているはずです。その想いをつなぎ合わせ、共に手を携え協力しながら、家庭・地域・学校が絡ぐるみで、ふるさとみよしの次代を担うみよしっ子を大切に育てていきましょう。

なお、後期計画においては、本ページ「みんなで育てるみよしっ子」を「作戦Plus One」（P31）に基づいて内容を充実させたくうえで、市民に発信していきます。



「共育」と「協育」について

共育とは、家庭・地域・学校が手を取り合い、「共に子どもたちを育てる」こと、及び子どもの教育に関わることを通して「子どもたちだけでなく、大人も共に育つ」ことを意味しています。

協育とは、家庭・地域・学校が「協力して教育・共育を担っていく」ことで、子育てを通して相互の連携を深めていくことを意味しています。

